

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 一般社団法人グローバル人財サポート浜松

1. 事業名称

地域に活力を与える外国人多文化共生コーディネーター育成事業

2. 事業の目的

浜松市をはじめとする静岡県西部地域には外国人が多数居住しており、各市では日本語能力が入門・初期レベルの外国人に対する日本語教育事業は進んでいる。しかし長年日本に暮らす外国人にとっては、それ以上の日本語能力をつける機会がない。なかには高い日本語能力を有する外国人もいるが、彼らは会話はできても日本人を相手に対外折衝や事業説明などをするまでの能力が未だ乏しい。これからの多文化共生社会の構築には、こうした高い日本語能力を有する外国人が率先して自らの文化や民族性を日本人に伝え、相互理解を深める機会が必要である。そこで外国人の多文化パワーを地域に活かすべく、外国人の多文化共生コーディネーターを育成し、多文化共生社会づくりを目指していく。

3. 事業内容の概要

高い日本語能力を有する外国人が、文化通訳者として活躍できるよう多文化共生コーディネーター（通称：多文化コンシェルジュ）を養成・育成する。①プレゼンテーションや企画立案のできる日本語を学ぶ教室の開催、②日本語で学んだことを活かして事業（講座やイベント）を企画し運営する機会の提供、③本事業の成果について他地域にノウハウを提供するためのシンポジウムの開催、という3つの取り組みにより、地域における外国人の高度人材育成のスキームを確立する。さらに、地域財産として埋もれてしまっていた能力や可能性のある外国人の発掘を行い、多文化パワーを活用した地域力向上を図っていく。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 7月30日 10:00～ 11:30	1時間 半	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、毛受敏浩、池上重弘、長田治義、石塚良明、堀 永乃	事業内容と連携のスキーム・体制の整備について	事業目的の共有、事業内容の把握、養成者の出口支援のための連携体制の築き方について協議を行った。
2	平成25年 12月10日 14:00～ 15:30	1時間 半	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、毛受敏浩、池上重弘、長田治義、石塚良明、堀 永乃	事業の中間報告、シンポジウムに関する事、人材育成協議会について	受講者の状況や講座の進捗状況について報告、公民館での講座を評価、シンポジウムの内容に関する事、人材育成協議会での協議結果の報告を行った。
3	平成26年 3月18日 13:30～ 15:00	1時間 半	グローバル人財サポート浜松研修室	西原鈴子、毛受敏浩、長田治義、堀 永乃	事業評価	事業の評価と課題の共有、今後の展望について検討を行った。

5. 取組についての報告

○取組1:外国人多文化共生コーディネーターのための日本語講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

多様な機関の連携により在住外国人の持つ多文化力を活かすことのできる人材を育成し、その育成マニュアルを構築する

(2) 取組内容

外国人と日本人をつなぎ、双方の価値観を尊重し相互理解を深めることのできる機会の提供や事業の推進を行うことのできる人材となるために必要な日本語を学ぶ。

(3) 対象者 N2程度以上の日本語能力を有する外国人と日本人

(4) 参加者の総数 23 人

(出身・国籍別内訳 ブラジル5人、中国4人、フィリピン3人、モンゴル1人、イギリス1人、ポーランド1人、ペルー1人、日本7人)

(5) 開催時間数(回数) 60 時間 (全28回)

(6) 取組の具体的内容

○ベーシックコース 午前クラス、夜間クラス

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 9月20日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	12人 (午 前)、9 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	まちのニーズ をみよう	浜松市がどんな街なのか、受講者同士 が考え、その長所と短所について理由を つけて書き出し、浜松の現状から、浜松 市をもっとよくするためには、どうしたら いいのか、自分らがどんなことができるの かについて考えをまとめた。【現状把握と 課題の抽出、行動目標】	鈴木淑恵(午 前) 堀 永 乃(夜間)	
2	平成25年 9月27日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	11人 (午 前)、6 人(夜 間)	ブラジル (3)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(5)	情報を集めよ う	情報収集の方法について考えた。街の情 報、住みやすさ(生活環境)の情報、働き やすさの情報など、テーマ別に情報をど のように集め、どのように伝えたら いいのかを発表。また、その情報を提供す る対象者別に集めておく便利な情報に ついて調べた。	鈴木淑恵(午 前) 堀 永 乃(夜間)	
3	平成25年 10月4日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	13人 (午 前)、6 人(夜 間)	ブラジル (3)、中国 (5)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、日 本(6)	時節のあいさ つができる	サービスの提供とマナーをテーマに、コン シェルジュに必要な「おもてなし」の心と 姿勢について学んだ。時節のあいさつ、 礼儀作法、名刺の渡し方、電話マナーな ど、日本人から高い評価を受けやすくす るための作法を知り、それを実践練習し た。	山下純乃(講 師・呉竹壮若 女将)	鈴木淑恵(午前)、 堀 永乃(夜間)
4	平成25年 10月11日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	8人(午 前)、9 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	企画書の書 き方	行政関係者が事業で取り上げてみたい と思える企画書の書き方について学んだ。 相手から求められる事業とは？どうい うアプローチで、どう表現をするのが いいのか、その秘訣について学んだ。	長田治義(講 師・浜松市市 民協働セン ター長)	鈴木淑恵(午前) 堀 永乃(夜間)
5	平成25年 10月18日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	9人(午 前)、7 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	行政文書の 作り方	行政文書の書き方をテーマに、特に市に 提出する申請書と報告書の書き方につ いて学んだ。受講者がいずれ担当する であろう文化講座を例に、文書の何をポ イントにチェックをしているのか、現場の 方から教えていただいた。	石塚良明(講 師・浜松市役 所国際課長)	鈴木淑恵(午前) 堀 永乃(夜間)
6	平成25年 11月1日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	9人(午 前)、6 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	記録・報告書 の書き方	記録と報告書に必要な専門的な日本語 を学び、その書き方について、事例をも とに実践練習を行った。5WIHで書くポ イントを押さえた。	鈴木淑恵(午 前) 堀 永 乃(夜間)	

7	平成25年 11月8日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	10人 (午前)、8 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	日本人の価 値観	日本人の価値観をテーマに、日本人と働 くうえで押さえておきたい、知っておきた い日本人の扱い方について、長年日本 人と働いている講師より学んだ。異文化 理解を外国人の視点で行った。	中西エリカ (午前講師・ CLAIR) 堀 永乃(夜間講 師)	鈴木淑恵(午前)
8	平成25年 11月15日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	10人 (午前)、7 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	依頼状の書 き方	依頼状の内容がわかるよう、その内容を 読みこなす練習を行った。また、自身が 企画した事業で、講師をお願いした場 合に依頼状をどのように書くのかにつ いて学んだ。	鈴木淑恵(午 前) 堀 永 乃(夜間)	
9	平成25年 11月22日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	6人(午 前)、7 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	メールの書き 方	仕事の打合せではメールでのやり取りも 必要となるが、口語ではやり取りができて いても、丁寧な日本語を使いこなし、情報 のやり取りを行うことはなかなか難しいと いうことで、メール上で必要な語彙と表 現、書き方について実践的に学んだ。	堀 永乃(午 前・夜間)	
10	平成25年 11月29日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	6人(午 前)、5 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	お礼文の書き 方	御礼状の書き方について、まず感情をど のように伝えるのか、その感情を整理し 、想いを伝える工夫について考えた。また 、メールでそれをどのように伝えるのか実 際に穴埋め練習を行って練習した。	鈴木淑恵(午 前) 堀 永 乃(夜間)	
11	平成25年 12月6日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	8人(午 前)、7 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	講座の流れ を考えよう	「浜松の魅力」を日本人あるいは同国出 身の外国人向けに講演することになった 場合を想定し、講座の内容について企 画、その流れについて考えた。また、見 せる、魅せる、伝えることをポイントに教 材や教具は何を使ったらよいか、講師 をするうえで知っておくべき大切なことを 学んだ。	鈴木淑恵(午 前) 堀 永 乃(夜間)	
12	平成25年 12月13日 10:00~1 2:00、1 8:30~2 0:30	各2 時間	グローバル人 財サポート浜松 研修室	7人(午 前)、6 人(夜 間)	ブラジル (2)、中国 (4)、イギ リス(1)、 フィリピン (3)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、ペ ルー(1)、 日本(3)	講座を面白 くするポイント を学ぼう	講座を面白くするという事は、何を考え なければならぬのか、常に相手の求め ていること、知りたいことは何かを考えて 講座運営を考えなければならぬことを 学ぶ。	鈴木淑恵(午 前) 堀 永 乃(夜間)	

○ステップアップコース

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 10月19日 13:00~1 6:00	3時 間	ふじのくに西部 NPO支援セン ター	11	ブラジル (2)、中国 (1)、モン ゴル(1)、 日本(7)	プレゼンテー ションの技法	プレゼンテーションの目的、手法(どのよ うに伝えるのか、どう伝えることが伝わり やすくなるのか)について、ワークショップ (自己紹介、他己紹介など)を通して、そ こで必要となる表現も学び、プレゼンテー ション技術の向上を図った。	西川寛之	鈴木淑恵、堀永乃
2	平成25年 11月16日 13:00~1 6:00	3時 間	市民協働セン ター	7	ブラジル (1)、中国 (2)、モン ゴル(1)、 日本(3)	異文化社会 での交渉技 術	日本サッカーチームのコミュニケーション 問題を事例に、異文化のなかでコミュニ ケーションをとることについて考えた。	藤田美佳	堀永乃

3	平成25年 12月21日 13:00~1 6:00	3時 間	市民協働セン ター	6	ブラジル (1)、中国 (1)、モン ゴル(1)、 日本(3)	心をゆさぶる コミュニケー ションの手法	オリンピックや富士山が世界遺産に登録 されたことから、県外の日本人や海外の 人たちに、この町の魅力をどのように伝 えるのか、ワークショップを通して実践練 習を行った。	清 ルミ	鈴木淑恵、堀永乃
4	平成26年 1月18日 13:00~1 6:00	3時 間	市民協働セン ター	11	ブラジル (1)、中国 (1)、モン ゴル(1)、 ポーランド (1)、日本 (7)	多文化コン シェルジュの 役割と期待	これまでの学びについて自己評価を行 う。また、多文化コンシェルジュとして、浜 松でどのような活動ができるのか、どうし ていくべきなのかについて話し合い、文 化通訳者としての役割を考えた。	堀 永乃	鈴木淑恵

(7) 参加者の募集方法

チラシによる公募;浜松国際交
流協会の機関誌にチラシを同
封。ホームページとSNSを活
用。関係機関での配架。
地方新聞での事業紹介により
公募。



(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

<第1回>

「まちのニーズをみよう」講師;鈴木淑恵、堀永乃
自分の住んでいる地域の状況を把握し、分析する力をつける。
コンシェルジュは大観的に物事をとらえて、相手のニーズを
的確に把握することが求められることを指導。



<第3回>

「時節のあいさつができる」講師;山下純乃氏(呉竹壮若女将)
日本人の価値観について、時節の挨拶、礼の仕方や名刺の渡し方
といった立居振舞いから学ぶ。日本人の「おもてなし」について触れる。



・ステップアップコース

<第1回>

「プレゼンテーションの技法」講師;西川寛之氏(明海大学)
相手にどう伝えるかについて、ワークショップ形式で学ぶ。
文化講座を担当する受講者もいたので、みな熱心に参加していた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

高い日本語能力を有する異なる国の人たちが、同じ課題について意見を伝え合うことで、よりグローバルな視点で「浜松の魅力」を考えることができたことは、非常にユニークだった。また、受講者アンケートによると満足度はとても高く、「このような講座を待っていた」という具体的な声もあった。この回答からも受講者の外国人は、自分の社会参画のために必要だと思っていた内容を学び、自身の持つ能力の向上を目指していることが伺える。多文化コンシェルジュという肩書きができたことも、彼らの活動の幅を広げるツールになった。そして、これからは多文化コンシェルジュとして活躍していきたいと全員が答えていることも、本事業の成果である。

(10) 改善点について

事業(講座)の内容を考えたり、外国人の視点で浜松のまちの魅力を伝えることができるようになったが、実習がなかったため、実際に講義や発表をするとなると十分な練習と指導が必要だった。ステップアップコースが土曜日開催だったため、当初申し込んでいた外国人が家族の理由で参加できなかったため、平日開催も考慮していく必要があるだろう。また、シンポジウムでのポスター発表でのデザイン性や伝える技術の指導も課題。

○取組2:多文化パワーによる地域力向上推進プロジェクト

(1) 体制整備に向けた取組の目標

多様な機関の連携により、外国人の持つ多文化パワーを地域に活かし、地域の活性化を生み出す仕組みを作る

(2) 取組内容

高度な人材へと育成されている過程にある取り組み1の外国人受講者を地域の活力とすべく、外国人多文化共生コーディネート育成協議会を設置し、その人材育成のプロセスを多様な機関によって確立していく。そのため、受講者が自国の文化や民族性、価値観などを日本語を使って日本人に伝え、相互理解を深める講座を中部協働センターと浜松市立東部中学校で開催する。そして外国人が講座資料などを実際に作成することで日本語運用を習得し、一つの事業の運営を通して社会参画へとつなげていく。また、今後の活動を広げていくため、「多文化コンシェルジュ名鑑」を作成する。

(3) 対象者 取組1の外国人受講者(コンシェルジュ)と既に活動をしている外国人、日本人(地域住民、中学生)

(4) 参加者の総数 48人

(出身・国籍別内訳

ブラジル3人、中国2人、モンゴル・ポーランド・チュニジア・ナイジェリア各1人、日本39人

(5) 開催時間数(回数) 21 時間 (全7回)

(6) 取組の具体的内容

①浜松で、ぐるっと世界プチ旅行

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 10月26日 13:30~15:30	2時間	浜松市中部協働センター	8人	日本(5)、 ブラジル(3)	ブラジル	ブラジルの国、文化、ブラジル人の価値観について日本人を対象にした文化体験講座を行う。	宮本ルーカス(発表)、鈴木淑恵(指導者)	杉山真之介
2	平成25年 11月2日 13:30~15:30	2時間	浜松市中部協働センター	6人	日本(4)、 中国(2)	中国	中国の歴史、史跡、文化(食べ物・ファッション)について日本人を対象にした文化体験講座を行う。中国茶の入れ方を伝える。	花嶋玲恵(発表)、堀永乃(指導者)	杉山真之介

3	平成25年 11月9日 13:30~1 5:30	2時 間	浜松市中部協 働センター	7人	日本(5)、 ポーランド (1)、モン ゴル(1)	モンゴル	モンゴルの国、遊牧民の生活、馬頭琴に ついて日本人を対象に文化体験講座を 行う。馬頭琴がモンゴルにとっていかに 重要な楽器かを伝える。	飯野ホラン (発表)、鈴 木淑恵(指導 者)	杉山真之介
4	平成25年 11月16日 13:30~1 5:30	2時 間	浜松市中部協 働センター	8人	日本(6)、 ポーランド (1)	ポーランド	ポーランドの国、文化について、音楽のま ち浜松と比較しながら文化紹介を行う。 ポーランド出身の作曲家の音楽を聴きな がら文化を体感する。	田近ヨアンナ (発表)、鈴 木淑恵(指導 者)	杉山真之介
5	平成25年 11月30日 13:30~1 5:30	2時 間	浜松市中部協 働センター	6人	日本(5)、 チュニジア (1)	チュニジア	チュニジアの国、言葉、文化について、日 本人を対象にした文化体験講座を行う。 チュニジア人は唐辛子が好きだというこ とで食体験をした。	マーク カメ ル(発表)、 堀永乃(指導 者)	杉山真之介
6	平成25年 12月7日 13:30~1 5:30	2時 間	浜松市中部協 働センター	3人	日本(4)、 ナイジェリ ア(1)	ナイジェリア	アフリカ大陸の国として、ナイジェリアを 取り上げ、その国の魅力について紹介す る。	イフェ(発表)	杉山真之介
7	平成25年 12月14日 13:30~1 5:30	2時 間	浜松市中部協 働センター	16人	日本(16)	フィリピン・ス 페인	フィリピンの国の文化と自然、交通事情 について紹介し、その後スペインのフラメ ンコ体験を行う。	野村愛(発 表)、エスペ ランサ(発表)	杉山真之介

○東部中学校

1	平成25年 11月15日 13:30~1 5:30	2時 間	浜松市立東部 中学校	20人	日本(20)	フィリピン・モ ンゴル	フィリピンの国の文化と自然、コブサラダ を紹介。またモンゴルの馬頭琴と遊牧民 の文化を伝える。	袴田マリ(発 表)、飯野ホ ラン(発表)、 堀永乃(事 前指導者)	堀 永乃
---	------------------------------------	---------	---------------	-----	--------	----------------	---	---	------

②外国人多文化共生コーディネーター人材育成協議会

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 10月11日 15:00~1 6:30	1時 間半	グローバル人 財サポート浜松 研修室	藤田美佳、長田治 義、松下直樹、鈴木 淑恵、堀 永乃	協議会の趣旨・目的の共有と外国人の人材育成プログ ラムのスキームの確立に向けた課題について	協議会の目的と方向性の共有、 これまでの知見と経験を活かし て外国人の人材育成プログラ ムのスキーム確立に向けた課題と 解決策の模索
2	平成25年 11月15日 15:30~1 7:30	1時 間半	グローバル人 財サポート浜松 研修室	藤田美佳、長田治 義、鈴木淑恵、堀 永乃	成果物と活躍の場の確保について	中部協働センター事業と東部中 学校事業の評価、人材の出口確 保に向けたホームページの作成 について
3	平成26年 3月12日 14:00~1 5:30	1時 間半	グローバル人 財サポート浜松 研修室	藤田美佳、松下直 樹、鈴木淑恵、堀 永乃	キャリアデザインの必要性和事業評価	指針としてキャリアデザインが必 要であることについて協議し、人 材育成としてのプログラムの内 容について、それぞれの立場か ら事業評価を行う

(7) 参加者の募集方法

中部協働センター(旧中部公民館)の管轄地域における回覧板での公募。
市民協働センターおよびふじのくに西部NPO支援センターでのチラシ配架。
SNSでの情報発信。



(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

＜浜松でぐるっと世界一周プチ旅行＞
 モンゴルの遊牧民の生活やポーランドの文化について、DVDや写真をふんだんに使って紹介したので、受講者はイメージが湧きやすく親しみやすかった。



＜多文化コンシェルジュ名鑑＞

誰もが活躍の場を広げられるよう、グローバルが拠点となって彼らの活躍を支えることを目的にホームページ上に名鑑を掲載。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

プチ旅行；浜松市の中部協働センターと連携・協働して事業が実施できたことが大きな成果であり、地元住民の方々と外国人多文化コンシェルジュを会う機会が提供できてよかった。来年度も同様の講座を中部協働センターが開催するはこびとなった。

多文化コンシェルジュ名鑑；静岡県や国際交流協会、東部中学校などの事業や文化講座で多文化コンシェルジュが講師として活躍することができた。

東部中学校国際理解講座；学生のポートフォリオによると「先生の日本語は、あまり上手ではないけれど、僕たちのために一生懸命伝えてくれて、嬉しかった」「その国のことをもっと知りたくなった」という感想が寄せられた。講師を務めた多文化コンシェルジュが拙いながらも役割を果たすことができ、かつ講師を務めた本人たちの振り返りでも自分たちの学びに大きな効果があったという。

育成協議会；これまで、養成や育成というところまでのコースはあったけれども、実際に出口のところを用意されていたプログラムは初の試みであり、関係機関との協働があつてよかった。

(10) 改善点について

プレゼンテーションについて学んではいたが、実際に行うとなるとパワーポイント資料の作成や教材準備に日本人補助者が必要になる。また、3時間という長丁場であるため講義内容とテンポが良くないと参加者が飽きてしまう。今後は内容の組み立て方と実践練習の必要性が課題。

○取組3：多文化パワーを活かしたまちなか活性化シンポジウム

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国人の多文化パワーを地域社会に活かしていくことが持続可能な社会づくりのうえで重要であることを参加者に理解してもらう

(2) 取組内容

講演1「人口減少時代の多文化パワーの可能性」講師；毛受敏浩氏(日本国際交流センター執行理事)

講演2「多文化共生社会の新局面～地域から始まる新たな動き～」講師；池上重弘氏(静岡文化芸術大学教授)

パネルディスカッション「多文化パワーを活かして」

講師；西原鈴子氏(国際交流基金日本語国際センター所長)、田近ヨアンナ氏(ポーランド出身)、

飯野ホラン氏(モンゴル出身)、長田治義氏(浜松市市民協働センター長)

ポスター発表；多文化コンシェルジュによる「浜松の魅力」をテーマにしたポスター発表

(3) 対象者 外国人と日本人

(4) 参加者の総数 80人

(出身・国籍別内訳 ブラジル7人、中国・ポーランド・モンゴル各1人、日本70人)

(5) 開催時間数(回数) 3時間 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 2月22日 13:30~16:30	3時間	浜松市地域情報センター	80人	ブラジル7人、中国1人、ポーランド1人、モンゴル1人	多文化パワーを活かしたまちなか活性化シンポジウム	講演1「人口減少時代の多文化パワーの可能性」講演2「多文化共生社会の新局面～地域から始まる新たな動き～」パネルディスカッション「多文化パワーを活かして」	講演1 毛受敏浩、講演2 池上重弘、パネルディスカッション 西原鈴子、飯野ホラン、田近ヨアンナ、長田治義	松永利紗、堀永乃

1	平成26年 2月22日 13:30~16:30	4時間	浜松市地域情報センター	80人	ブラジル7人、中国1人、ポーランド1人、モンゴル1人	多文化パワーを活かしたまちなか活性化シンポジウム	ポスター発表	藤田美佳	松永利紗、堀永乃
---	-------------------------------	-----	-------------	-----	----------------------------	--------------------------	--------	------	----------

(7) 参加者の募集方法

浜松国際交流協会の機関誌での告知、チラシの配架、SNSの活用

(8) 特徴的な活動風景



(9) 取組の目標の達成状況・成果

「多文化パワー」という言葉に興味を持った、これまでとは違う層へのアプローチができた。

日本語ボランティアよりも商工会議所や企業、政治家、学生といった背景の参加者が外国人住民の活躍について感じる機会となったことは、文化庁の取り組みと本事業の重要性を新たな人たちに伝える貴重な機会となった。ポスター発表では、多文化コンシェルジュが様々な視点から「浜松の魅力」について発表することができた。外国人の視点から、子育てしやすい環境が整っている利点を外国人PTAの発達として発表していたコンシェルジュがいたが、とてもわかりやすく説明ができていたので、参加者からも高い評価を得た。

(10) 改善点について

ポスター発表のデザインについては、見やすさの工夫が足りず、簡素なものもあった。

今後はプレゼンテーション指導のなかに、紙媒体での伝え方の工夫について内容も加えておく必要がある。

土曜日よりも平日のほうが、企業関係者には参加しやすいようなので、日程の設定も検討する必要がある。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

高い日本語能力を有する外国人が、自己実現のために社会参画するための人材育成としての日本語教育プログラムの開発と、社会参画の機会を多様な機関が連携協働してスキームを確立することを目的とする。

(2) 事業目的の達成状況

人材育成(多文化コンシェルジュベーシックコースとスキルアップコース)のプログラムの開発ができたこと。取組2での協議会において、そのプログラムの内容を関係機関で協働しながら精査できたことは大きな成果であった。また、従来型の講座ではなく、実際に文化講師として中学校や協働センターで外国人が活躍する道筋を作り上げることができ、初年度としての目標を達成することができたと考える。これは、中学校での学生ポートフォリオや協議会での委員からの評価によっても、それが十分うかがえる。

(3) 地域における事業の効果、成果

在住外国人が日本語を学ぶのは、「日本語が上手になったら、日本人と同等の社会的立場がほしい」ためだという目的がある。これは、彼らが何かしら地域社会に接点を持ち貢献したいという思いの表れではないかと考える。こうした理由から、多文化コンシェルジュとして新来の同国出身者には浜松における生活のアドバイスや的確な情報提供を、一方、日本人には母国の文化や習慣、価値観などを伝える役割を担い、地域の活性化に寄与する人材を育成することを目的として事業を推進してきた。地域の活性化というテーマで、浜松商工会議所や袋井商工会議所、地元企業の理解を得られ、つながりができたことはもちろん、日本の習慣や価値観をよく理解している多文化コンシェルジュが文化講師や語学講師として海外進出を考えている企業やその従業員(駐在予定者とその家族を含む)に助言をもらえるツールがあることを知ってもらえた。これは、外国人の活躍の場を作るうえで新たなフィールドの開拓になったと考える。

多文化コンシェルジュが在住外国人100人を対象に行ったアンケートでは、外国人の回答から、彼らのニーズと従来の地域日本語教育の在り方を見直す必要性が感じられた。これも、多文化コンシェルジュを中心とした外国人コミュニティの存在が伺えることと、コンシェルジュには彼らのコミュニティの方々を先導していくことができる人材であることが明確となった。

日本語教育プログラムと出口支援の一連の流れを協働して行ったことから、コンシェルジュの今後の活動の場をイメージできるように課題の共有を図れたこと、かつ地域全体を把握しているそれぞれの機関の連携により構築することができたことは、大きな成果であったと思われる。また、これによりいずれの取り組みも地域事業のモデルになれることもよかった。協働センターや学校の単体だけの事業でなく、連携することで、地域における事業のさらなる展開が予測され、他機関への汎用性も高いと言えるだろう。本事業が外国人の可能性に着目したという点、またそれを引き出して地域につなげるという異なる人々や機関がつながりあってできあがったことが、本事業は地域に十分寄与できる事業であると考えられる。

本プロジェクトに地元に通う大学生が補助運営や作業運営に関わったことで、地域の次世代に外国人住民の現状と課題、共に街づくりのパートナーとして認識できたことは、副次的な効果としてあげておく。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

多文化コンシェルジュの育成プログラムの基礎となるシステムの開発ができた。
中部協働センターの来年度事業で多文化コンシェルジュの活躍の場の提供が確約されている。

ii 今後の課題

育成プログラムの開発において、パフォーマンス能力やプレゼンテーション能力など、いまだ指導が不十分なところがある。また、何ができるようになったらコンシェルジュとして必要な能力を習得できるようなものなのか、キャリアデザインの確立までには至っていない。
社会参画するまでに必要な教育課程(プログラム)とキャリアパスの形成を明確にする必要がある。

iii 今後の活動予定

外国人住民が積極的に社会参画できるようになるための教育課程(プログラム)とは何か、キャリアパスの形成を行っていく。そのためには、まず多文化コンシェルジュの方々から、来日してからの日本語学習についてヒアリング調査をし、自己能力のポートフォリオをまとめていく。

また、これまで開発された文化庁の「生活者としての外国人」のためのカリキュラム案と評価ポイント、他機関で開発されたCan-do Statementを活用して、それらの調査を行っていく。

さらに、本事業の汎用性と展開を広げていくため、人材育成プログラムとして職種別で求められる能力を分類化できるようにしていく。

(5) その他参考資料

ベーシックコーステキスト
アンケート結果
シンポジウム報告書



一般社団法人
グローバル人財サポート浜松

◆ACCESS◆

◆お問い合わせ◆

HOME 事業紹介 INFORMATION 組織概要 会員募集

在住外国人支援事業

介護初任者研修

- 目的
- 講座の様子
- 受講生募集
- 学則
- 卒業生

多文化コンシェルジュ

- ベーシックコース
- ステップアップコース
- 浜松で、ぐるっと世界一周プチ旅行
- 多文化コンシェルジュ名鑑

日本語教室

防災イラスト

カエルプロジェクト

次世代育成事業

WISH

CORES

音楽のまち浜松・文化人財発見プロジェクト

日韓青少年人財交流

日本語教育実習生受け入れ

講師派遣事業

企業内日本語教室

自治体研修

多文化コンシェルジュ名鑑



飯野ホラン
イノハラ



花島玲恵
ハナジマ



浅田マリア
アサカマリア



マーティン
イトモツ



田近ヨアンナ
タナカヨアンナ



大槻恵理
オツキ



澤佐和子
サワノ



和田園子
ワタナベ



柳澤クリスティーナ
ヤナギクリスティーナ



宮本ルカ
ミヤモトルカ



佐藤千穂子
サトウチエコ



HOME 事業紹介 INFORMATION 組織概要 会員募集

Copyright © 一般社団法人グローバル人財サポート浜松 All Rights Reserved.



多文化コンシェルジュ

講演者 池田真由美氏 <国際文化コミュニケーションセンター 准教授>
コーディネーター 酒井雅子氏 <国際文化コミュニケーションセンター 准教授>
パネリスト 藤田アキラ氏 <国際文化コミュニケーションセンター 准教授>
高橋由美氏 <国際文化コミュニケーションセンター 准教授>

全員100名 参加費無料
2月22日(土) 10:00~12:00
申込者は電話またはメールにて
TEL 053-442-1881
MAIL info@globaljinzai.or.jp

多文化コンシェルジュ名鑑



飯野ホラン

出身国 : モンゴル
言語 : 英語・モンゴル語・インドネシア語・日本語

私は「グローバル人」

私は飯野ホランと申します。日本の野原にいるモンゴルの野生の馬です(名前の意味)。モンゴルの首都ウランバートルに生まれ育ち、海外に住み20年近くたちます。ロシア、韓国、アメリカ、インドネシア、シンガポール、日本などの国に住んだことがあり文化や言葉の勉強をしてきました。



父の仕事の影響で小さい頃から色々な文化や考え方に刺激を受け、現在自分のことを日本国籍のモンゴル人と言うよりはグローバル人だと思っています。小中学校でロシア語、大学で英語の勉強をし、モンゴルTV局の子供教育課に通訳として勤めました。

主人の仕事でジャカルタに6年間滞在中インドネシア大学でインドネシア語を修得。日本へは10年前に来日し、その後、英語、インドネシア語、モンゴル語を教えています。2010年に日本語能力試験N1を取得。今両国の言葉の通訳や文化を勉強しています。以前日本の着付けを習った事があり、現在生け花教室にも通っています。

今回多文化コンシェルジュの講座に参加させていただき、自分のやりたい事に気づかせてもらいました。

大切なことは、開かれた欧米文化、ユニークなイスラム文化、遊牧民のモンゴル文化の良い所、悪い所を探る事ではなく、それぞれの国の人々が長い歴史の間生き残るためにできたライフスタイルを尊重することだと思います。これから益々グローバルになっていく世界において、日本の子供たちとみんながいろんな文化を体験し、興味を持ち、理解することに役にたちたいと思います。

平成 25 年 7 月 30 日
@ グローバル人財サポート浜松

文化庁委託事業「地域に活力を与える外国人多文化共生コーディネーター育成
事業」

第 1 回運営委員会（次第）

1. 開会（10:00）
2. 運営委員のご紹介
※資料 1
3. 趣旨説明
※資料 2
4. 協議
 - （1）事業について
 - （2）連携体制について
 - （3）広報について
5. その他
6. 閉会（11:30）

運営委員名簿 ※敬称略、五十音順

池上重弘（静岡文化芸術大学教授）

石塚良明（浜松市企画調整部国際課長）

長田治義（浜松市市民協働センター長）

河合正志（浜松まちなかにぎわい協議会事務局長）

西原鈴子（国際交流基金日本語センター長）

毛受敏浩（日本国際交流センタープログラムオフィサー）

堀 永乃（一般社団法人グローバル人財サポート浜松代表理事）

● 趣旨

浜松市をはじめとする静岡県西部地域には外国人が多数居住しており、各市では日本語能力が入門・初期レベルの外国人に対する日本語教育事業は進んでいる。しかし長年日本に暮らす外国人にとっては、それ以上の日本語能力をつける機会がない。なかには高い日本語能力を有する外国人もいるが、彼らは会話ができても日本人を相手に対外折衝や事業説明などをするまでの能力が未だ乏しい。これからの多文化共生社会の構築には、こうした高い日本語能力を有する外国人が率先して自らの文化や民族性を日本人に伝え、相互理解を深める機会が必要である。そこで外国人の多文化パワーを中心市街地に活かすことを目標に、外国人の多文化共生コーディネーターを育成し、街の活性化を図り多文化共生社会づくりを目指していく。

● 地域の実情と課題

静岡県西部地域では行政サービスとしての日本語教室や NPO 等が主催している日本語教室がある。それらはいずれも入門期や初期レベルの日本語指導で、最低限の日本語レベルで「生活をする」ことでとどまっている。外国人の長期滞在が進むなか、中級レベルの日本語能力を有する外国人はいるが、彼らがさらなるステップアップをし、日本人同様の社会参画をするまでの日本語能力を習得する機会はない。公民館等の語学講師を務めている外国人は外国語ネイティブでの活躍にすぎず、日本人との対等な交渉や理論的な話題をし、かつ公的文書を作成する能力は習得している外国人はいまだ少ない。そのため、公的文書作成は日本人に頼らざるをえない状況にある。これでは、いつまでも外国人が自ら発案し積極的かつ主体的に社会参画することができない。彼らの生活の質を高めるためにも、単なる「生活のため」を目標とした日本語教室ではなく、「自立し社会活動に参画するため」を目標とした日本語教室の開設が課題となっている。

(1) 事業について

① 多文化コンシェルジュのための日本語教室 ※チラシ参照

ベーシックコース

9月20日～12月13日 金曜日

午前コース 10:00～12:00 2時間×12回

夜間コース 18:30～20:30 2時間×12回

ステップアップコース

10月16日、11月19日、12月21日、1月18日 土曜日

13:30～16:30 3時間×4回

計60時間

対象者計20人（日本人含む）

② 地域力向上推進プロジェクト；多文化講座の開催と協議会による評価

1) 文化講座の開催

・「多文化コンシェルジュによる世界プチ旅行」中部協働センター
学んだ日本語を活かして、実際に文化講座を開催する

10月26日（土）～12月13日（土） 10:00～12:00 全7回

・（タイトル未定）浜松街中

1月～2月 全5回

2) 協議会の開催

にぎわい協議会さん、松下直樹さん（中部公民館長）、藤田美佳さん（奈良教育大学特任准教授）、堀永乃による多文化コンシェルジュ育成協議会にて、**①**外国人市民が社会参画するための日本語カリキュラムを開発、**②**文化講座の実践を振り返り事業評価を行い、**③**人財育成のシステムを構築すること、を行う。

③ シンポジウムの開催

『多文化パワーを活かしたまちなか活性化シンポジウム』（仮題）

事業全体の成果と今後の課題について発表し、多様な人材を生かして地域の活性化につながる人財育成の仕組みづくりについて提案していく。

平成26年2月22日（土）13:30～16:30

13:30～13:40 事業報告

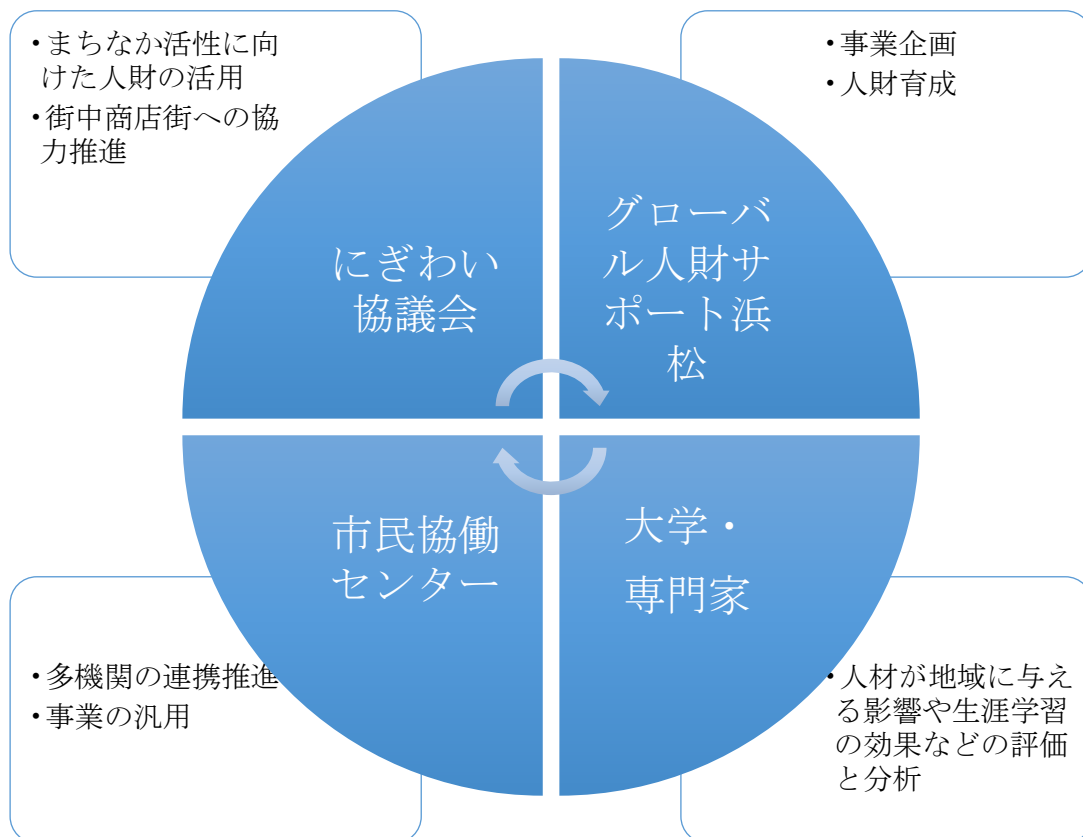
13:40～14:20 講演1

14:25～15:05 講演2

15:10～16:15 パネルディスカッション

16:15～16:30 質疑応答

(2) 連携体制について



(3) 広報について

バイリンガル教師養成講座を修了した外国人リーダーへのロコミ、当法人の HP、SNS、市民協働センターの HP、浜松国際交流協会の機関誌に記事掲載とチラシ配架、浜松まちなかにぎわい協議会の SNS 等

平成 25 年 12 月 10 日
@ グローバル人財サポート浜松

「地域に活力を与える外国人多文化共生コーディネーター育成事業」
第 2 回運営委員会（次第）

1. 開会（14:00）
2. 協議
 - （1）事業進捗状況報告について
 - （2）「浜松で、ぐるっと世界一周プチ旅行」（中部協働センター主催事業）
について
 - （3）多文化コンシェルジュ育成協議会について
 - （4）シンポジウムについて
3. その他
4. 閉会（16:00）

(1) 事業進捗状況報告

浜松市、磐田市、掛川市在住の 7 か国（ブラジル、ペルー、フィリピン、モンゴル、ポーランド、中国、イギリス）出身の外国人と海外生活経験者の日本人（韓国、アメリカなど）、計 23 人が受講。

● 特徴的な講座の様子

・ベーシックコース

9月20日～12月13日 金曜日

午前コース 10:00～12:00 2時間×12回

夜間コース 18:30～20:30 2時間×12回

<第1回>

「まちのニーズをみよう」講師；鈴木淑恵、堀永乃

自分の住んでいる地域の状況を把握し、分析する力をつける。コンシェルジュは大観的に物事をとらえて、相手のニーズを的確に把握することが求められることを指導。



<第3回>

「時節のあいさつができる」講師；山下純乃氏（呉竹壮若女将）

日本人の価値観について、時節の挨拶、礼の仕方や名刺の渡し方といった立居振舞いから学ぶ。日本人の「おもてなし」について触れる。



・ステップアップコース

10月16日、11月19日 土曜日 13:30~16:30 3時間×4回

<第1回>

「プレゼンテーションの技法」講師；西川寛之氏（明海大学）

相手にどう伝えるかについて、ワークショップ形式で学ぶ。文化講座を

担

当する受講者もいたので、熱心に参加していた。

11人



<第2回>

「異文化社会での交渉技術」講師；藤田美佳氏（奈良教育大学）

コミュニケーションの方法について、サッカー日本代表チームがメンバー同士のコミュニケーションを事例に、手法を学んだ。

6人



(2) 浜松で、ぐるっと世界一周プチ旅行

期 間 10月26日～12月14日 毎週土曜日 13:30～16:30

対 象 中部協働センター地区の住民

内 容 多文化コンシェルジュ候補者（現、受講者）が各国の文化や習慣を紹介する。

課 題

- ・講座受講の日本人の出席率が安定していない→時間が合わない
- ・講師側のプレゼンテーションの経験が不十分のため、事務局側での講座準備のフォローが必要



(3) 多文化コンシェルジュ人財育成協議会（地域力向上推進プロジェクト）について

● 目的

- ①外国人市民が社会参画するための日本語カリキュラムを開発
- ②文化講座の実践を振り返り事業評価を行う
- ③人財育成のシステムを構築することを行う。

● 協議の進捗状況

受講者が多文化コンシェルジュになるのに必要な能力について、各講座の様子を通して分析している。特に外国人が社会参画していく道筋を明確にしていきたいと考えている。しかしながら、カリキュラム内容には、授業の進行方法などの改善点が多くあるため、今年度中のカリキュラム開発は時期早々と考える。また、人財育成システムにおいては、中部協働センターでの事業のみを例に検討するには、情報が不十分である。そこで、社会参画の手がかりになるハード面の整備に特化し、今年度の成果としていく。

● 目標

静岡県の「さくや姫プロジェクト」を見本に、「多文化コンシェルジュ」のホームページサイトを作成。講座等を企画している行政や団体

体

に広く周知できるようにする。

受講者は①自己PR②受講理由③今後コンシェルジュとして活躍していきたいことを記載し、自己PR記事をホームページ上に掲載。

富士山頂を目指し、3776人の「さくや姫」を
静岡県知事 | 川勝平太（かわかつ・へいた）

「さくや姫プロジェクト」とは？
What is the Sakuyahime Project?
・ Sakuyahime Project
・ Sakuyahime
・ Sakuya Individual

さくや姫プロジェクト特別企画「さくやな祭り」トーク LIVE
「しずおか・ひと・未来」
～ 子どもたちが描く未来のために、今何ができるのか？
Part1 テーマ「夢」 Part2 テーマ「まち」

「さくや姫」×「さくやな人々」対談
これからの女性、
これからの家族。
犬塚 協太 / 下山 美穂

＊ さくや姫 - Sakuyahime

http://sakuyahime.jp/ MSN Japan TOP | さくや姫プロジェクト 東芝PCサポート情報

「さくや姫プロジェクト」とは？
What is the Sakuyahime Project?
・Sakuyahime Project
・Sakuyahime
・Sakuya Individual

180名の現代のさくや姫
さくや姫

さくや姫の良きパートナー
さくや姫の人々

静岡県知事メッセージ
富士山頂を目指し、
3776人の「さくや姫」を

「ふじのくに」の
フロントランナーたちと
つくる未来
2012年1月21日(土)
盛況のうちに終了!

「しずおか・ひと・未来」
～子どもたちが描く未来のために、今何ができるのか？
Part1 テーマ「夢」 Part2 テーマ「まち」

これからの女性、
これからの家族。
犬塚協太 / 下山美穂

*** さくや姫 - Sakuyahime**

 小児医療 増井礼子	 おばあちゃん劇団 大石さき	 語り手 田所雅子	 光バイオ 太田万理	 フードプロデューサー 松本侑己
---	---	--	--	---

さまざまな分野で活躍する静岡県に囲わりの深い女性たち

さくや姫の
一覧をみる

23:29
2013/12/08

(5) シンポジウムについて

『多文化パワーを活かしたまちなか活性化シンポジウム』（仮題）

事業全体の成果と今後の課題について発表し、多様な人材を生かして地域の活性化につながる人財育成の仕組みづくりについて提案していく。

平成 26 年 2 月 22 日（土）13:30～16:30

13:30～13:40 事業報告

13:40～14:20 講演 1

14:25～15:05 講演 2

15:10～16:15 パネルディスカッション

16:15～16:30 質疑応答

・パネリストについて

講演 1 毛受敏浩先生

講演 2 池上重弘先生

パネルディスカッション

・コーディネーター 西原先生

・石塚課長

・受講者から 2 名（ポーランド、モンゴル、ブラジルから選抜）

・広報

HICE NEWS12 月 1 月号

Facebook

ホームページ

チラシ

シンポジウムアンケート結果

1. 内容はいかがでしたか

- 大変よかった 8
- よかった 4
- ふつう
- あまりよくなかった 1
- よくなかった
- 無回答 2

2. (1の回答について)その理由をご記入ください

グローバルという認識を新たにできた

実際に他県でどのような活動がなされているのか知ることができた

講演2についてもっと詳しく知りたかった

プレゼンターが良い

人口減少が進む中で多文化パワーを活かしたまちづくりの可能性の大きさを認識することができた

普段の生活の中で自分たちが住んでいる地域の実情を知る機会がないため色々な情報を頂けたと思う

具体的で理解しやすい

1つ1つのユニットが短いので興味が続く

講演者の選択がとても良い

文芸大など若い学生の人たちの証が池上先生を通して紹介され、改めてその活躍にすごいなと思った

ディスカッションは女性問題の話題、日本文化の是正の話題に偏り、多文化や外国人の話題が少なかった

日本人以外の価値観を聞くことができ、有意義だった

いろいろ勉強させていただいた

パネルディスカッションが、フリートークであれだけ議論が深まる下地がすばらしい

3. 一番、印象深かった内容はどれですか

- 講演1「人口減少時代の多文化パワーの可能性」 2
- 講演2「多文化共生社会の新局面～地域から始まる新たな動き～」 7
- パネルディスカッション「多文化パワーを活かして」 7
- ポスター発表 1
- 無回答 2

4. 今回のシンポジウムはどうやって知りましたか

- 知人・友人から 4
- チラシで 7
- ホームページ／Facebookで 4

- 新聞で
- HICE/SIR で
- その他()
- 無回答 2

5. 多文化パワーを活かすために、あなたには何ができるとお思いますか。(自由記述)

となりの人とのコミュニケーション

「認識のインフラ」を共有するためにどうすればいいのか、タイ人コミュニティー、外国人学習支援を通じて彼ら彼女らを活かせるのか、改めて考えていきたい

定住している外国の人々と交流する機会を持って知人・友人を多くしていく

もっと、大学で自分から学ぶ

人の意見をたくさん聞いて、自分の意見を持つこと

私の(日本人の)友達に、インドネシア人の友達を紹介して、一緒にごはんを食べに行く

ホランさんの「社会に参画したかった」という言葉が印象的だった。社会参画したいと願う人が、社会に参画できるような社会を創っていきたく感じた

私は今外国人の子どもを中心として学習支援をしている

仕事の中で、海外からの実習生への指導、サポートを行っているので、信頼を得られるように彼らに対する接し方や日本語勉強方法を振り返り改善していきたい

姉妹都市や国際交流協会など、何でもいいが、今のわたしたちのネットワークやコミュニティーを利用し、広くまち全体にPR・広報していくことが必要だと思う

オープンに何でも話せる、一緒にいることを楽しめて、助け合える良い隣人同士になる

私自身、国内で転勤、海外で生活の経験があり、異文化にふれることがあった。多文化パワーを活かしたまちなか活性化というテーマにひかれてきたが、すこし物足りない内容だった

6. あなたのお住まいは、どちらですか

- 浜松市内 7 (中区 4 西区 北区 東区 1 浜北区 1 天竜区 南区 1)
- 浜松市外 3 (静岡市 2 塩尻市 1)
- 無回答 3